

庄川流域懇談会における各委員のご意見とその対応

| | 主なご意見・ご質問 | 懇談会 | 対応 | 資料 |
|------------------------|---|-----|---|---------------------|
| 河川整備計画全般、その他について | | | | |
| 1 | ・計画対象区間について、区間だけではなく氾濫区域または影響のある区域や庄川の水の恩恵といった観点も加えた方がよいのではないか？ | 第2回 | 流域や洪水の氾濫域、庄川の水の恩恵が及ぶ地域を対象エリアとして課題を抽出とし、国土交通大臣管理区間を河川整備実施区間とした。 | 整備計画(案) P2 |
| 2 | ・整備計画原案の河川整備実施区間の河川に関することと利賀ダムに関することについて、質問先が分かるよう担当事務所を明記してはどうか。 | 第4回 | 計画対象区間の図に所管事務所を記載した。 | 整備計画(案) P2 |
| 3 | ・庄川の源流は、山中山の峠の上流にある湿原と聞いたことがある。併記するなど配慮できると良い。 | 第2回 | 慣用的に源流としている既存文献もあり、烏帽子岳と山中山峠を併記した。 | 整備計画(案) P4 |
| 4 | ・用語として上流部、中流部、下流部の使い分けに工夫が必要である。 | 第4回 | 流域全体対象とした場合は、流域上・中・下流部と、扇状地を対象とした場合は扇状地上・中・下流部と記載を区分するとともに、区域を図示した。 | 整備計画(案) P7,P37-38ほか |
| 5 | ・原案の構成を見直した方が分かりやすい。例えば、霞堤の記載箇所や優先順位の高い内容を先に持ってくるなど。 | 第4回 | ご指摘を踏まえ優先順位の高い事項から記載した。 | 整備計画(案) P50-56 |
| 洪水による災害の発生防止又は軽減に関する事項 | | | | |
| 6 | ・計画流量に対する堤防の整備状況に加え、整備計画の目標値である戦後最大洪水に対する評価も入れるべき。 | 第2回 | 戦後最大洪水に対する評価を追加した。 | 整備計画(案) P20 |
| 7 | ・庄川の川底が下がっていると聞いているが、堤防への影響についてどう対応していくのかも課題の一つである。 | 第1回 | 近年は河床の低下傾向はなくなり安定してきているが、河床低下により危険となった箇所については、護岸の根継ぎ等、急流河川対策を行う。 | 整備計画(案) P23,54 |
| 8 | ・道路でふさがれている霞堤もあるが、機能しているのか。すり付きに問題がないのか。 | 第2回 | 現存する霞堤を「氾濫戻し機能」と「遊水機能」の観点から評価した。 | 整備計画(案) P25 |
| 9 | ・黒部川の昭和44年の洪水では、霞堤により洪水氾濫の拡大を防いだ航空写真があるので、このような資料を利用して霞堤の重要性を示す参考としたらどうか。 | 第4回 | 霞堤の効果がわかる貴重な事例なので、参考に航空写真を記載。 | 整備計画(案) P25 |
| 10 | ・温暖化による水位上昇の影響もふれておく必要があるのではないか。 | 第4回 | 整備計画の目標の1つである「危機管理体制の強化等」において地球温暖化の影響も踏まえることを記載。 | 整備計画(案) P47 |
| 11 | ・利賀ダムを整備することで安定した庄川になると思うので、利賀ダムの整備促進が重要である。 | 第1回 | 庄川沿川の洪水被害の軽減、水需要への対応や渇水被害の軽減を図る利賀ダムの整備を位置づけている。 | 整備計画(案) P51 |

庄川流域懇談会における各委員のご意見とその対応

| 主なご意見・ご質問 | | 懇談会 | 対応 | 資料 |
|-----------------------------|--|-----|--|----------------------------|
| 12 | ・低水護岸には、危険と思われるところも幾つかあるので、順次補強をし、そのことについても計画に盛り込んでいただきたい。 | 第1回 | 急流河川対策として既設護岸で根入れが不十分な危険な箇所において根継ぎ護岸等を行っていくとともに、維持管理においても早期に護岸の損傷を発見し、補修を行う。 | 整備計画(案) P54,65 |
| 13 | ・外水位の潮位をどのように考えて河口の出発水位を決めているのか。高潮区間は河口部から上流部に何kmか。 | 第2回 | 具体的に整理した数字を再度説明。 | 第3回資料1-4 |
| 14 | ・霞堤の維持管理については、治水上の機能や生物の生息環境等をランク分けして維持すべき箇所を定めて管理していくのが望ましい。 | 第3回 | 霞堤は昔からの急流河川としての知恵としてつくられてきたものであり、現存している霞堤については、その機能を活かし、水害に強い沿川地域づくりを目指したい。 | 整備計画(案) P56 |
| 15 | ・出発水位は潮位よりも高いのではないか。 | 第4回 | 河口部における既往最大水位と最高潮位の関係を図示。 | 整備計画(案) 附図-15 |
| 16 | ・整備計画目標流量である戦後最大洪水の水位を記載する必要があるのではないか。 | 第4回 | 縦断図の中に戦後最大洪水時の水位を記載。 | 整備計画(案) 附図-15 |
| 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 | | | | |
| 17 | ・利水面では、水力発電による社会貢献や利水者との連携が重要であることを記載したらどうか。 | 第4回 | 特に渇水時には、河川管理者、水理使用者等の関係機関と調整を図り、渇水被害の拡大防止を記載。 | 整備計画(案) P32 |
| 18 | ・合口ダム下流では河床が1.5~2.0mほど低下しているが、河床低下と地下水への影響の関係はどのように考えているか。 ・地下水位の調査結果があるので、河川水位との関係を説明したらどうか。 | 第3回 | 扇頂部及び扇端部では変動が小さく、変動の大きい扇中央部でも、かんがい期に地下水位が上がる傾向があり、水田が主な涵養源となっていることを説明、第4回で再度説明した。 | 整備計画(案) P34 (第4回資料補足説明) |
| 19 | ・下流では、湧水が出て豊富な魚類相を形成していて非常に良いが、上流における伏没する場所では、流量が少なくなる。渇水期になると本当に小さな流れしかない。 | 第1回 | 流水の正常な機能の維持を図るため、利賀ダムを整備するとともに、利賀ダムの効率的な運用による流況改善についても、今後、改善効果等の研究を進めながら実施の可能性を検討する。 また、庄川の維持管理において、アユなどの生息・生育・繁殖環境を保全するための正常流量の確保を特に留意すべき課題として位置づけるとともに、渇水時には関係水利使用者との調整を図り、被害の拡大防止に努める。 | 整備計画(案) P57,61,69 |
| | ・伏流水が地域に貢献するというのはかなりあると思うし、水産関係にもプラスの影響があるので、現状について資料を整理してはどうか。 | 第1回 | | |
| | ・地下水利用の増大、環境への配慮のために庄川合口ダムからの放流量を増大して欲しい。 | 第3回 | | |

庄川流域懇談会における各委員のご意見とその対応

| 主なご意見・ご質問 | | 懇談会 | 対応 | 資料 |
|------------------|--|-----|--|-------------|
| 20 | ・利賀ダムの利水計画はどうなっているのか。 | 第2回 | 再度説明した。利賀ダムの効率的な運用による流況改善についても、今後、改善効果等の研究を進めながら実施の可能性を検討する。 | (第3回資料1-3) |
| 21 | ・地下水の関係についても流水の正常な機能の維持という面で配慮事項として欲しい。 | 第3回 | 流水の正常な機能の維持が維持されるよう、河川の縦断的な流況モニタリングや地下水位の状態を把握するとともに、これら調査結果を評価し、関係機関と協力して合理的かつ適正な流量の確保に努める。 | 整備計画(案) P69 |
| 河川環境の整備と保全に関する事項 | | | | |
| 22 | ・注目種が生育している地域の表現やサイカチ群落は日本有数の群生地であることを強調した表現として欲しい。 | 第4回 | 指摘のように日本有数のサイカチ群落と記載した。 | 整備計画(案) P37 |
| 23 | ・ワンドやたまりは、洪水によって移動する可能性があるため、そのことを明記した方が良い。 | 第4回 | ご指摘を踏まえワンドやたまりの位置は左右岸の区別をせず、河岸と表記した。 | 整備計画(案) P38 |
| 24 | ・「攪乱により河川環境が形成・・・」というより、「洪水による破壊によって再生していく」というその遷移過程が保全の対象であることを強調した方が良い。 | 第4回 | 指摘のように洪水による「破壊」とその後の「再生」を繰り返すことが特徴であると記載した。 | 整備計画(案) P48 |
| 25 | ・コンクリートの陰ばかりでは、魚が住もうにも住めないという実態があるので、魚が住めるような淀みとか深みといったものを工事の中に取り込んでもらいたい。 | 第1回 | 河川整備の工事にあたっては、環境アドバイザー等の意見を踏まえつつ、生物や景観への影響の回避、低減、代償を図る多自然川づくりを推進していく。 また、サクラマス等魚類の生息環境再生を目的とした河川環境の創出にも努める。 | 整備計画(案) P58 |
| | ・河川敷の整備に当たっては、人と生きものは分けて考える必要があり、より自然に近い形で仕上げる工夫が望まれる。 | 第3回 | | |
| | ・整備に際しては庄川の自然の生態に配慮し、動植物と共生していけるような取り組みをお願いしたい。 | 第4回 | | |
| 26 | ・環境生態系において重要な、支川あるいは農業用水と本川とのつながり・連結がどうなっているのか調査し対応を考えていく必要があるのではないかと。 | 第1回 | 改善効果が期待できる扇状地中・下流部において、関係機関と調整しながら落差解消等を図り、河川・用水路・水田をつなぐ水域ネットワークの形成を目指す。 | 整備計画(案) P59 |
| 27 | ・ふれあいロードや地域の要望を踏まえた環境整備を進めて欲しい。 | 第4回 | 庄川沿川の公園や緑地のネットワーク化を図るふれあいロードの整備をはじめ、背後地の施設や地域の要請などを踏まえた、自然環境や水と親しめる環境整備を推進する。 | 整備計画(案) P60 |
| | ・水と親しむ環境、水と親しみながら運動できる環境づくり(例えば水辺プラザ)が大切である。 | 第1回 | | |

庄川流域懇談会における各委員のご意見とその対応

| | 主なご意見・ご質問 | 懇談会 | 対応 | 資料 |
|---------------|--|-----|--|-------------------|
| 〃 | ・学校活動だけでなく公民館活動等、休日や放課後を含めて活動できる施設が近くにあると良い。自然環境と水と親しむ活動等を普及、発展させる環境づくりが必要である。川の内と外での連携を包括的に進めて行くことで自治体との連携にもつながる。 | 第2回 | 〃 | 〃 |
| 28 | ・松川除けを史跡指定に向けて努力しているので、協力して欲しい。 | 第3回 | 河川事業にとっても歴史的価値があると理解している。洪水疎通能力を妨げない部分を保全していくことで了解。(市文化財として指定済み) | 整備計画(案) P60 |
| 河川の維持管理に関する事項 | | | | |
| 29 | ・自然のサイクルを考えた維持管理が必要ではないか。 | 第3回 | 指摘のように洪水による「破壊」とその後の「再生」を繰り返す庄川の特徴を踏まえて維持管理を実施していくと記載。 河道内樹木の繁茂、拡大により洪水を安全に流下させる上で支障となっている箇所等については、上下流バランスに配慮しつつ、適切に伐採する。 | 整備計画(案) P48,64 |
| | ・急流河川の特徴は、破壊と再生を繰り返していることであり、治水支障のある樹木はサイクルに合わせて再生・伐採していくことを明確に示す必要がある。 | 第4回 | | |
| | ・橋梁の上流側に樹木が繁茂している場合は、流木の影響が生じるので、優先的に樹木伐採した方が良い。 | 第3回 | | |
| | ・河岸の決壊への対応はどのように考えているのか。 | 第3回 | | |
| 30 | ・土砂採取によって護岸が侵食・洗掘されているのではないか。 | 第3回 | 現在は、河道内に土砂がたまって流れにくくなっている箇所のみにおいて土砂採取を許可している。 | — |
| 31 | ・サイクル型の維持管理は、調査や計画、維持管理などが連携し全体として、維持管理の結果を活用したり個々のアクションを決めたりするものであり、今後のよりよい管理につながるものである。 | 第3回 | 川は自然のものであり、絶えず変化する中で「治水」、「利水」、「環境」の目標を達成するための必要なレベルを持続させるよう、サイクル型の維持管理に努める。 | 整備計画(案) P61 |
| 32 | ・光ファイバーを活用した堤防の変位をリアルタイムで観測するようなシステムは考えていないのか。 | 第3回 | 光ファイバーを活用については、現時点においてもCCTV(河川監視カメラ)によるの情報収集等に活用している。今後、更に高度化、効率化を図り、防災情報の質の向上に努める。 | 整備計画(案) P67 |
| 33 | ・維持管理については行政と地域が協働して取り組んでいきたい。 | 第4回 | 地域を連携・協働する河川管理として、住民参加の河川の管理等を推進する。 | 整備計画(案) P70~72 |